

アピール

ゆたかな学びを保障するカリキュラムづくりをすすめよう

わたしたちは、全国からのべ1万人がここ静岡の地に集い、第67次教育研究全国集会を開催しました。

集会のオープニングでは、戦争や自然災害からの復興を願い、今に受け継がれている「清水みなとかつぽれ」が発表されました。全体集会では、教育の果たす役割の重要性を再認識し、これまで積み上げてきた教育研究活動を継続・発展させていくこと、社会的対話を通して現場からの教育改革を一層すすめていくことを確認しました。記念講演では、アメリカの教育の現状を通して、競争主義・成果主義の観点から、日本の教育に対して警鐘が鳴らされました。

分科会では、子どもに寄り添った教育実践について各教科・領域ごとに報告・討議されました。次期学習指導要領において「資質・能力の育成」が強調される中、ゆたかな学びを保障するカリキュラムづくりや子どもを中心に据えた教育のあり方等について論議されました。子どもの教育を受ける権利や人権等の観点から、自分の実践を見つめ直し、なかまから多くのことを学ぶ機会となりました。

特別分科会では、子どもの学びと社会のあり方を考えるシンポジウムが行われました。第1部では、災害後の子どもたちの実態、教職員の思いを切り口に、子ども・学校をとりまく今日的課題が浮き彫りとなりました。第2部では、保護者や教職員等各々の立場から、今の子どもにとって必要なことは何か、おとなができることは何か等についての意見が出され、子どもとの関わり方や子どもの居場所づくりについて考える場となりました。

今次教研において、改めて各地域における教育課題を共有するとともに、ゆたかな学びを保障する教育実践について討議・交流を行いました。日教組結成70年の節目を迎え、若い世代の教職員に教育研究活動を継承していくことが重要となります。わたしたちは、引き続き、憲法・子どもの権利条約の具現化をはかるため、平和・人権・環境・共生を柱に、民主的な社会の主権者を育む教育実践をさらに積み上げていきましょう。

2018年2月4日

日教組第67次教育研究全国集会